

消化器・肝臓病センターでは肝臓病と胃腸の病気に対する高度専門医療を提供、地域のリーディングホスピタルを目指しております。開設以来取り組んできた高齢者医療と併せより良質な医療提供体制整備を推進しております。

宮崎医療センター病院

鮮やかに桜が咲いて春が来て、また新しい年度を迎えました。私たちは特別な思いを抱いて桜を見ます。美しい花を一緒に咲かせる「生命の息吹」とあつという間に散ってしまう「はかなさ」を併せ持つ桜に人生を重ね合わせ、そして潔い散り方に美学をみえています。

いよいよ高齢化社会を迎えます。ヒトは加齢に伴い全身の機能が衰えていきますが、桜のような散り方はなかなか難しく、たくさんの方を抱えた状態で年を重ねて弱っていきます。療養病棟には、脳卒中による麻痺に加えて心臓病、糖尿病を合併し肺炎を繰り返すといったような患者さんが多数おられます。骨も皮膚も脆弱で、栄養補給や呼吸管理のために外科的な処置が必要なこともあります。

一方で医療は細分化され、医師が専門外の診療を行うことが難しくなっています。これからは、それぞれの医師が得意とする領域を持ち寄り力を合わせて高齢患者さんをみていく体制が不可欠です。当院の慢性期療養病棟は内科医、外科医に加え、昨年より整形外科医が加入し骨折などに迅速に対応しています。そして、この4月から皮膚科医師が加わり皮膚疾患の専門的な治療ができるようになりまし

“総合力”・・・本格的な高齢化社会に備えて病

四季

題字 理事長自筆
春号
(平成26年4月1日発行)

MEDICAL CORP.
JOJINKAI
Hospitals & Welfare Institutes
宮崎市高松町2番16号
TEL: 0985-26-2800
FAX: 0985-27-6811

総合力で、皮膚科開設にあたって、病院長 田畑 直人

院に求められる“キーワード”であり、高めていかなければならない力です。消化器肝臓病センターは、消化器内科・消化器外科の各医師が専門性をより深く追求しながら先端医療を提供できるように、生活習慣病センターは、内科、外科、整形外科、皮膚科の医師が協力的に合いながら高齢患者さんへ全人的・包括的な診療が提供できるように、それぞれが努力を重ねながらこれまで以上に地域に必要とされる病院を目指してまいります。

平成26年度診療報酬改定

平成26年度診療報酬改定が実施されました。今後予想される超少子高齢社会で、医療ニーズが慢性疾患を中心に増大し、医療の内容がかわっていく中で、限られた医療資源を医療ニーズに合わせて効果的かつ無駄なく活用できるようにしていくといった考えから、つぎのような基本方針の下に改定が進められました。

一、医療機能の機能分化・強化と連携、在宅医療の充実等

◆入院医療では、高度急性期・一般急性期については、7対1入院基本料の適正化を図るため、患者が状態に応じて適切な医療を受けられるよう急性期病床における患者像を適切に評価する。また、急性期患者の早期退院・転院や、ADL低下予防のため、早期からリハビリの実施や退院・転院支援の充実を図る。

そのために、

- ①急性期病床の担う機能の明確化、病床の機能強化
- ②重症度・看護必要度の見直しによる患者の状態に応じた医療の提供
- ③入院早期からのリハビリや退院・転院支援
- ④退院・転院に係る連携の強化
- ⑤急性期病床の平均在院日数の短縮等

理念

○私たちは、自分が受けた医療・看護・介護を提供します

基本方針

- ・患者さまの権利と尊厳を大切に、心のこもった医療・看護・介護を提供します
- ・根拠に基づいた説明のできる医療・看護・介護を実践します
- ・全職種による安全で質の高いチーム医療を行います
- ・急性期から在宅医療までを繋ぐ医療・看護・介護を提供します
- ・地域連携に努め、地域包括ケアシステムの発展に貢献します
- ・お互いを信頼し、やりがいと誇りを持つ職場にします

宮崎医療センター病院



★新医療機器を導入しました★

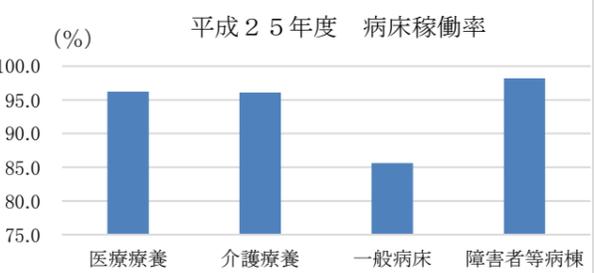
大腸カプセル内視鏡には、2台の小型カラービデオカメラ（両側に1台ずつ）、バッテリー、LED光源が装備されており、嚥下すると約10時間にわたって毎秒最高35枚の画像が撮影され、患者様に装着した記録装置に転送されます。この記録装置からコンピュータにデータが転送され、ソフトウェアを使ってビデオ画像として編集され、医師が検査の結果を評価・報告することが出来ます。これにより、小腸に加え大腸がんを含む大腸疾患を診断できるようになりまし。県内では、当院が初の導入となります。

ファイブロスキャンは、体を傷つけることのない非侵襲的な検査の為、出血等の心配がなく、また従来の検査のような入院の必要がなく、外来での検査が可能です。計測に要する時間も3〜5分程度（※個人差あり）と早く、肝臓の硬さを計測して肝硬変などの肝臓疾患の進行度を調べることもできます。

診療情報

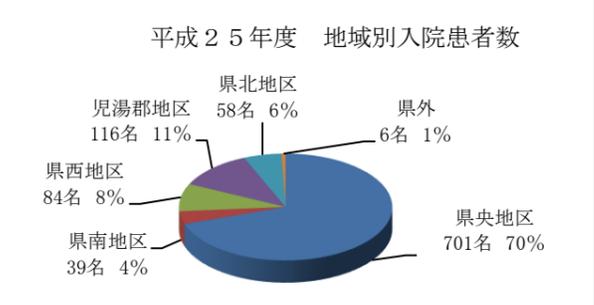
平成25年度 一般病床(60床)入院患者統計

- ・平均在院日数
- ・病床稼働率
- ・地域別入院患者数



★診療科目の変更のお知らせと入院患者統計★

平成26年4月1日より「循環器内科」が廃止され新しく「皮膚科」が診療科目として追加されました。当院の標榜診療科は6科で左記のとおりとなります。



患者様の権利

- ・患者様は、良質な医療サービスを平等に受ける権利があります
- ・患者様は、人格・意思が尊重され、人間としての尊厳を守られる権利があります
- ・患者様は、自分自身の診療に関する情報の提供を受ける権利があります。また、他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります
- ・患者様は、医療従事者から説明を受けた後に、提案された診療計画などを決定する権利があります
- ・患者様は、プライバシーを尊重される権利があります

宮崎医療センター病院では、上記に基づき患者様の権利を尊重して医療を行っております。

宮崎医療センター病院

◆慢性期（長期療養）については、急性期病床と長期療養を担う病床の機能分化を計るため、
 ①急性期病床における長期入院患者の評価の適正化
 ②長期療養を担う病床の急性期等との連携強化、受け入れ体制の充実等
 ◆外来診療では、まず身近な主治医を受診し、必要に応じて大病院や専門病院を紹介してもらい、回復又は病状が安定したら主治医に逆紹介される体制の整備。また、外来医療の機能分化・連携をさらに推進するため、

①診療所や中小病院における主治医機能の評価
 ②大病院の専門外来の評価
 ③大病院の紹介外来を更に推進する方策等
 ◆在宅医療については、主治医を中心に病院、医師・歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション、介護事業所等が連携し、地域で急変時や看取りを含めた在宅医療を提供できる体制を構築する。
 ◆医療機関相互の連携や医療・介護の連携によるネットワークについては、限られた医療資源の下で、患者が急性期から在宅医療、介護まで患者の状態に応じた適切な医療を受けられるよう地域の実情に「地域完結型」のネットワークを構築する必要がある。病院、医師・歯科診療所、訪問看護ステーション、介護事業所のネットワークにおいて患者の状態に応じた質の高い医療を提供すること、病院から在宅への円滑な移行や医療と介護の切れ目ない連携を図ることについて検討する。

◆当院への影響
 このような方針の下に、改定が行われ、診療報酬本体部分で+0.73%、薬価部分でマイナス0.63%の改定となり、全体の改定率は+0.10%となります。病院としては改定に伴う施設基準等の見直しが必要となりますが、患者様視点から当院での診療等が変わる主な点は次のとおりとなります。
 ○診療料（初診料・再診料）を初め、入院基本料、

疾患別リハビリテーション料の窓口負担金が増えることとなります。
 ○自費のお支払いについては、消費税率改定により、5%から8%へ引き上げ、健康診断料、個室料、文書料、オムツ等物品の料金も変更となっております。新しい料金等は院内に掲示しておりますのでご確認ください。
 ご理解の上、ご協力の程、お願い致します。
病院開設30周年を迎えて
 総務 大郎

宮崎医療センター病院は、昭和59年4月に前身の医療法人愛和会宮崎愛和病院として開設され今年で30周年を迎えました。地域の高齢者医療に貢献することを主な目的として設立され、設立時の名称は「宮崎はまゆう病院」と言い、病床数50床の小規模病院でした。その後、昭和59年7月に高知愛和病院とともに医療法人愛和会を設立し、宮崎愛和病院に病院名が変更されました。
 開院当時44床であった病床は逐次増床され、昭和60年に272床、昭和62年に350床と増床され現在に至っています。この間、昭和60年に本館（現在のB館）が落成し、昭和63年には新館（現在のC館）が落成しました。当時、新館落成パーティに招待されたお客様は、7階の見事な大ホール、リハビリテーション訓練室及び医療設備に、これが老人病院だろうかと同じ様に驚いたそうです。
 開設以降、保険医療機関及び国民健康保険療養取扱機関等各種取扱い医療指定および老人デイケア・作業療法法の承認、平成6年には特別許可老人病院入院医療管理の承認を受ける等高齢化社会に対応できる施設の整備を推進し、平成8年には総合リハビリテーションセンターが開設されました。平成10年に法人名を医療法人社団晴緑会に変更し、現在の法人名となりました。その後、平成12年の介護保険法制定に伴い、介護療養型医療施設に指定され介護療養：236床、医療療養：114床の運用が開始

されています。
 平成15年1月からA館の新築、B、C館の改修工事が開始され、6月に病院名を宮崎医療センター病院に変更、11月にグラウンドオープンし、消化器肝臓病センターと生活習慣病センターが開設され現在の体制が発足しました。
 改修工事は、C館7階に仮設の病棟を設置して各病棟を順番に引越しながら実施されました。暑い最中の引越で、皆へとへと、大変だったことを懐かしく思い出されます。
 宮崎医療センター病院として発足して10年が過ぎました。この間、肝臓疾患・消化管疾患の専門施設として一般病棟も開設され、一般・療養病床、外来機能が充実するにつれ院内外の雰囲気・評価が随分変わってきたように思います。院内的には、スタッフが全体的に若返り、明るく、活気が感じられ、各種会議・委員会も機能し、組織的に業務が遂行されています。地域貢献活動で自治会や福祉協議会等と触れ合う機会が多くありますが、当初は、「宮崎医療センター病院はどこにあるのですか」といった感じでしたが、数年前から肝臓・消化管疾患、カプセル内視鏡等に関することや知人・身内が入院しているといった話をよく耳にするようになりました。これも、病院の実績が評価され認められてきた証左なのでしょう。
 これから予想される超高齢化社会に向けて、国は医療機能の分化、医療・介護のネットワーク、地域包括ケアシステムまでの「病院完結型」の医療から、地域で患者を見る「地域完結型」へ転換しようとしています。当院が今後病院として生き延びていくためには、肝臓疾患・消化管疾患の専門診療施設として、如何に地域から必要とされるか、また、290床の慢性期病床を、急性期の後方支援施設として如何に充実するかに掛かっているように思います。当院には、ご存知のとおり、長期計画（平成25年度～29年度）が策定されています。今後病院のありたい姿を達成するために

具体的な行動計画が説明されています。
 先ずは、職員皆が一致協力して、病院の「将来ありたい姿」を達成することだろう、しなければと思いつつ・・・
 職員一同みんなで協力してより良い宮崎医療センター病院となるよう頑張っていきたいと思います。

人事

■医師の入退職

◆退職（平成26年3月31日付）
 循環器内科 橋本 亮
 郷里の下関で開業される予定です。

◆入職（平成26年4月1日付）
 皮膚科 見明 友美



一 出身 宮崎市
 二 出身大学 鹿児島大学医学部
 三 嗜好 スイーツ系
 「明るく、楽しく仕事していきたいと思っております。」

■昇格（平成26年4月16日付）

- 課長職への昇格
 - 看護師長 松山麻美（A B 3 病棟）
 - 看護師長 渡邊幸子（C 2 3 病棟）
 - 医事課長 成合孝幸（医事課）
 - 経理課長 松島誠逸（経理課）
 - 係長への昇格
 - 施設係長 小田雅之（施設課）
 - 主任への昇格
 - 看護主任 清水史人（C 4 5 6 病棟）

お花見

介護病棟では、今年も花見を行いました。3月27日、やや曇りがちな一日でしたが、文化公園で患者様10名と病院長をはじめ10名のスタッフが楽しい一時を過ごしました。桜の花はほとんど満開状態で見頃でした。



桜並木を散歩



お茶を楽しむ

日頃院内で療養生活を送っている患者様も、その日は久しぶりに外に出て満開の桜と清々しい空気に触れ爽やかな顔をしておられました。桜並木の下を散歩し、お茶を頂き、スタッフと楽しい会話を交わし嬉しそうでした。良い気分転換になりましたね。また来年もよい花見ができるよう、療養生活を頑張りましょう。

院内研修会

医療安全研修会

2月25日に当院7階ホールにて「判例から考える医療事故」というテーマで医療安全講習会が行われました。東京海上日動火災保険株式会社より坪田修氏を講師に招き、肺塞栓、転倒転落、採血事故などの医療事故や個人情報漏洩



事故の判例・事例について、争点と結論、予防策をわかりやすく説明して頂きました。医療安全は、業務を行う上で欠かせない部分ということもあり、参加職員は真剣に耳を傾けていました。

入職者研修会

当院では、平成26年4月1日に新入職者集合教育を実施しました。新入職者は21名で、うち9名が新卒者でした。教育は、宮崎医療センター病院で勤務するために必要な基本事項及び医療人として必要な基本的知識の習得とともに、病院職員としての心構えを醸成することを目的に病院の概要、接遇・マナー、医療安全等左表のスケジュールに従って実施されました。病院長から、「きちんと挨拶を捨て下さい」「目の前のゴミを捨てることの基本です。と病院の理念である「私たちは、自分が受けた医療・看護・介護を提供したい医療・看護・介護をしながら訓示があり、入職者の皆さんは真剣に聞き入っておりました。初心を忘れず立派な医療人となつて下さい。期待して下さいますよ！」



時間	研修内容	担当
8:00	全体朝礼参加	
8:30~8:40	研修等の説明	渉外企画課 本間 豊和
8:40~8:50	プロモーションビデオ	
8:50~9:00	病院長挨拶	病院長 田嶋 直人
9:00~10:00	病院概要、業務・規程の説明	総務課 東 悠次
10:10~10:30	10分休憩	
10:30~12:00	接遇・マナーの説明	医事課 黒木 麻生子
12:00~13:00	感染対策の説明	感染管理認定看護師 久島 靖子 看護主任
13:00~14:00	研修会場にて昼食休憩	
14:00~14:40	医療安全の説明	医療安全管理者 黒田 伸一 看護副師長
14:45~15:25	防災・保安管理の説明	渉外企画課 本間 豊和 施設課 穂奇 泰男
15:25~16:30	5分休憩	
16:30~17:00	地域医療連携の説明	地域連携室 香森 友子 看護副主任
17:00	A館6階食堂へ移動	
17:00	入職手続き	総務課 近藤 恵子
17:00	各所属に戻り、所属長の指示を受ける（看護部入職者はA館6階食堂待機）	
17:00	タイムカード打刻後、退勤	